

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|------------|
| 建物名称 | 北九州スタジアム | 階数 | 地上6F |
| 建設地 | 福岡県北九州市 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 150 人 |
| 気候区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 240 時間/年 |
| 建物用途 | 事務所、工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2017年1月 予定 | 評価の実施日 | 2015年3月10日 |
| 敷地面積 | 27,305 m ² | 作成者 | 古川学 |
| 建築面積 | 11,723 m ² | 確認日 | 2015年3月13日 |
| 延床面積 | 26,398 m ² | 確認者 | 渡辺和幸 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|--|--|
| 総合 本施設は北九州市のスタジアムである。市民が集い、にぎわいを生み出す施設づくり、利用しやすさと管理しやすいゾーニング、塩害や風害に配慮した構造・設備計画など様々な工夫によって地域に豊かな環境を創出し、「小倉駅新幹線口のシンボルとなるスタジアム」を実現する。 | | その他 駅から徒歩7分という利便性に加え、海に隣接した立地特性を大事に考え、街のにぎわいづくりやスタジアム内からでも海や山を望むことができる計画とした。スタジアムには施設の顔となる「スタジアムプラザ」、そこから海に抜 |
| Q1 室内環境 ・スタジアム内の各室は個別に温度調整が行えるように個別空調方式を採用した。 | Q2 サービス性能 ・バスを使用し、内装デザインを検討する。 ・執務スペースは十分な広さを確保し、快適な執務環境となるよう配慮した。 | Q3 室外環境(敷地内) ・ピッチには天然芝を計画することで、外構の緑化に配慮した。 |
| LR1 エネルギー ・人感センサー、LED照明器具の採用により、電気使用量の削減に努めている。 | LR2 資源・マテリアル ・節水型衛生器具の採用、雨水利用など省資源に配慮した。 ・躯体材料にリサイクル材を使用した。 ・ODPの低い発泡剤を採用した。 | LR3 敷地外環境 ・建物利用者の利便性に配慮して、自転車置き場を計画した。 ・イベント対応のため、大きな集積スペースを確保し、ごみを一時保管する。 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される